

満中陰 表白

敬つて

大慈大悲の阿弥陀如来の尊前に

白して言さく

本日ここに

有縁の人びと 相集まり

恭しく仏前を荘厳し

懇ろに聖教を読誦して

当 寺 門徒

法名 釈 の

満中陰法要を勤修し奉る

静かに惟れば

「三界は安きこと無し 猶火宅の如し」

すなわち

生老病死の四苦は 逃るるにすべなく

愛別離苦の悲哀 また

避くることあたわず

然ればしか

阿弥陀如来あみだによらい

煩惱具足の凡夫を憐れみぼんのうぐそくぼんぷあわ

大悲の誓願を超発してだいいひせいがんちようほつ

十方の衆生を招喚じつぽうしゆじようしやうかん

釈迦如来しやかによらい

浄土三部の妙典を説いてじやうどさんぶみやうでんと

本願他力を宣説ほんがんたうきせんせつ

五濁の群生を發遣し給うごじよくぐんじようはつけんたま

ここに

故人こじん 往生の素懐を遂げておうじようそかいと

早くもはや 満中陰まんちゆういん

別離の悲しみべつりかな 今なお深くいまふか

哀惜の涙あいせきなみだ いまだ絶えずいたた

然りといえどもしか

我らわれ

この悲しみを縁としてかなえん

いよいよ深くふか

如来の大悲を聞き

俱会一处の教説を仰ぎつつ

浄土の再会を期せんとす

希わくは

如来大悲を垂れて哀愍納受し給え